



広報

Dazaifu City PR Magazine

だざいふ

2019
(令和元)年

5

No.972

議会だより
合併号

議会だよりは39頁以降に
掲載しています。



楠
の記



この度新しい御代となります「令和」元年が始まるにあたり、衷心よりお慶び申し上げます。

また、新元号と太宰府市が大きなご縁を頂いたことは大変光栄であり、この上ない慶びであります。

本市は長らく我が国の政治、外交、防衛の要衝として栄え、日本遺産の認定も受けております。

こうした誇りうる悠久の歴史や文化を生かしながら、「令和」ゆかりの地としてさらなる飛躍を目指して参ります。

またあわせまして「新生太宰府元年！」としての意欲的な取り組みもさらに充実強化して参ります。

太宰府市長

楠田 大蔵

祝

新元号「令和」

ゆかりの地

太宰府市

太宰府市 コメント

4月1日、新元号が「令和」に決まりました。その典拠は、約1300年前に、ここ太宰府の地で行われた「梅花の宴（ばいかのえん）」を記した、『万葉集』「梅花の歌」三十二首の序文にあることが発表されたところであります。

新たな元号と太宰府市が大きなご縁を持てました事は、新しい御代の始まりの慶びに加えまして、本市にとって大変光栄なことであり、地元市民をあげて喜んでおります。

この「梅花の宴」を主催したのは、万葉集の選者である大伴家持の父であり、奈良時代初頭の政治家としても有名な大伴旅人です。氏は、神亀4（727）年頃、大宰府の長官（大宰帥・だざいのそち）として赴任し、天平2（730）年に大納言に昇進し都に戻りますが、同年正月13日に、大宰府の役所が管轄した西海道（さいかいどう・九州）の官人たちを、自らが住まう邸宅に招き、この宴を開きました。

このとき詠まれた32首のうち11首は、市内各地に歌碑を設けております。なお、旅人の邸宅についてですが、旅人本人が詠んだ別の和歌には、丘陵とともに邸宅があったと推測されており、これに基づくいくつかの説があるところです。

太宰府の地には7世紀後半から12世紀前半にかけて地方最大の役所「大宰府」が置かれ、長らく我が国の政治、外交、防衛の要衝でありました。こうした本市の歴史文化については「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点」として、文化庁より日本遺産の認定も受けております。

今後もこうした誇りうる歴史や文化を活かし、本市が多くの国内外の皆様から愛される地であり続けるため、より一層の努力を重ねて参る所存であります。

結びに改めまして、新しい御代が、「令月」のように清新で「和（やわ）らぐ」時代となりますことを切に祈念致します。